

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700116
法人名	アール・エイチカンパニー株式会社
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本2547-1 (電話) 0994-28-1755
自己評価作成日	平成26年8月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点

- ・職員の社内・社外研修への積極的参加。(職員のケアの向上を図っている、資格取得で免許保持者の獲得)
- ・「市民救命士のいる事業所」で地域貢献に努めている。
- ・緊急時の体制(系列の医療機関との24時間連携体制で安全の確保を図っている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景や山並みが広がる自然豊かでのどかな地に建てられたホームである。開設当所は地域との関係作りに苦慮した時期があったが、管理者自らが住居を地域に移すなどし、自治会を通して、ホーム主催の行事へ参加の呼び掛けや、地域の総会で認知症に関する相談助言をする機会を積極的に設けるなど根気強い交流の働きかけの結果、現在は地域住民が気軽にホームに立ち寄ったり、旬の野菜を頻繁に差し入れてくれるなど、地域に受け入れられたホームとして長年の努力が実を結んでいる。

日中は殆どの利用者が昼間は布パンツの使用である。排泄チェック表を有効活用することで、適時の声掛けと誘導でオムツの使用を控えたケアは利用者の自信の回復と家族の経費軽減に大きく貢献出来ている。

職員教育にも熱心であり、キャリア採用の社員でも、ホームの理念に沿ったケアが出来るように、ゼロからのスタートを切り、ケアマネジャーを中心に徹底した研修や介護技術の教育を行っており、サービスの質の向上に努める運営者の強い姿勢が伺われる。

利用者への声掛けを重視し、原点に戻りコミュニケーションを大切に「声掛け運動」を行っている。利用者の表情の変化や意思の伝達力など結果を出しており、今後も定期的に取り組む予定でいる。

開設10年目を迎え、大所帯の大家族として、地域に根ざし利用者は日々、安心してゆったり暮らし続けることができる我が家と呼べるホームとなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は飾りであってはならず全職員日々の生活の中で確認し実践している。	ゆったり穏やかに暮らす利用者に寄り添い、バタバタとしたケアにならない様な支援に努めている。職員は日頃から、ホームの理念を心と体で感じ取れるよう教育を受けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年で事業所も10年を迎えた窓口も開始当時と違って「特別な施設」という雰囲気はまったくない。	地域住民が気軽にホームを訪れたり、旬の野菜の差し入れなどがあり、自治会長ともパイプラインを築いており、ホームや地域の情報を双方で共有し交流ができています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所には現在4名の救命士がいる運営推進会議を通し自治会での利用なども常に話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではそれぞれの代表の意見も役場への質問等サービス向上の為に活かされている。	家族代表、行政をはじめ各方面の出席を得て定期的に開催している。ホームの現状や地域高齢者情報など多方面から意見やアドバイスを貰い、サービスの向上に繋げる有意義な会議になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者も常に勉強されてるようで積極的な声掛けなど為になるお知らせが増えてきて大変助かっている。	相談事や情報の共有は密に出来ており、担当者が書類をホームに届けてくれる事もあり、双方で良好な関係が出来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は「しないさせない」を実践をもって行っている職員も多く研修を受けるとともに後輩への指導も板についてきた。	各ユニットで現場ノートを活用し、ケアマネージャーのアドバイスや気付きなど、振り返りの機会を多く持ち、研修の学びも現場で活かされている。見守りを重視し、職員の連携で束縛のない自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の中で何が虐待かは知っているが現場では思わぬ事が「虐待では」と取られる事があるその為その都度皆で話し合い勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護という言葉は知っているが施設ではまだ活用されるに至っておらず経験としての実践はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明を十分に行い理解を得た時点でサインをいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人の希望の受け入れ・各月の支払時の家族との面会などを通して施設への要望などを伺い出来る限り希望に添えるよう努めている。	年に2回、家族会を開催している。内1回は敬老会に合わせるなどし、家族と利用者が過ごす時間の確保や、何でも話し易い雰囲気作りに努めている。今後は家族会に職員を外し、家族だけの話し合いの時間を設けるなどし意見や要望の聞き取りの工夫も検討していく意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアマネが職員の意見を吸い上げ管理者・施設長を交え話し合い出来る限り要望に沿うよう心掛けている。	職員は日々のケアの問題点や要望などは、ケアマネジャーを中心に何でも言える雰囲気であり、気づきやアイデアはまず実践してみることで、改善に繋げる工夫をしている。定着率も良く、現場でのスキルアップから資格取得までフォロー体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は無理のない勤務状況・給料水準を実行している、努力して免許を取得した者にはその職に見合った手当をつけ各自が向上心を持って働けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員に合った研修を選び「出来る・出来ない」を把握し足りない部分の育成に力を注いでいる。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他の地区ではあるがグループホームの管理者との交流を深めている、町内では社協での研修会に参加し続く懇親会に施設長と共に参加し他の施設の職員との交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時本人の困りごとは本人の口からはなかなか発せられず本人の言葉に傾聴する中で不安なこと等を汲み取り本人の安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で自己表現のできづらい利用者の為に家族と一緒にあって不安のない生活づくり、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時何が必要かはまだはっきりつかめない事も多く、日々を通じてどの様なサービスが必要か見究め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員となり介護者と思わず毎日と一緒にのんびりと生活出来る関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく家族への連絡をまめに行い利用者が置き去りにされることなく家族との絆が切れない取組みを支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が増えるよう地域の方の外の面会者へ知人への声掛けをお願いして馴染みの縁が切れないうよう支援している。	玄関に家族の了解を得て、利用者の顔写真を掲示しており、訪問者の目に留まり、懐かしい再会の機会に繋がる事が多々ある。自宅に帰ったり家族と墓参りをする利用者もいる。訪問美容室の利用も取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方が多く利用者同士必ずしも会話が成り立っていないが職員が間に入ることでお互いの会話が成り立つよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の、或いは家族の理由で退所されたり、看取りを行なった家族との交流は続いている、遠方からの帰郷家族の訪問が続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしの実現はなかなか難しい、しかし傾聴する中で少しずつ思いを汲み取りできる限り寄り添えるよう心掛けている。	施設長の発案でコミュニケーション技術として「声掛け運動」を実施している。利用者の表情緩和や、意思の伝達力の向上など大きな成果を得ており、今後も定期的に行う意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の利用者の生活歴等全てが分かる訳ではないが馴染みの方々を通しサービスに生かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の気づきを通じて一人ひとりの体調管理に努め今何が必要か日々考えて接している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症に対する統一ケアは本人がより良く暮らす為の基本だと考え家族や他職種の関係者との話し合いを通じ介護計画を作成している。	家族や利用者の意向を踏まえ、ケアマネジャーを中心に、カンファレンスを通して利用者の暮らしを反映したプランの作成をしている。利用者の現状に合わせて、1ヶ月から6カ月のスパンでモニタリングを行い現状に添ったプランの見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践等記録に残し職員間で情報を共有しながら介護に活かし個別に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護者であった家族の状況の変化や今ある課題の変化に対応出来るように職員全員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等受け入れながら本人が自立を目指すための安全で楽しみのある生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所はかかりつけ医との関係を密にし適切な医療が受けられるよう家族と連絡を取りながら支援している。	協力医療機関と24時間医療連携体制もとられており、主治医と看護師に依る週2回の訪問診療を行うなど健康管理は手厚く利用者・家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の気づきの中からかかりつけ医の看護職員と常に相談し、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の病院入院後の面会や治療の段階的情報等を把握し、退院に向けての準備をし退院後の施設内での関係づくりを支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から終末期のあり方等本人・家族とも話し合っているが事業所で出来る事は限られておりチームで出来る事はなにか常に考えて介護にあたっている。	「看取り介護に関する指針」を作成して、家族にはホームで出来る最大限の支援について説明し同意も得ている。主治医を含め、家族との段階的な話し合いの内容は支援経過に記録し、職員全員で方針を共有し研修や教育を通して不安なくケアに取り組めるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応の仕方や職員の初期対応等訓練し救命士の研修を受け実践に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すぐ裏が山ではないけれどもしもの時に備えて対策を検討している運営推進会議を通じて地域とも協力体制も築いている。	消防署指導の定期訓練の他にホーム独自で夜間帯や抜き打ちの訓練を行い、避難経路や誘導方法など職員は、時間計測をするなどし、体で覚える訓練をしている。地域との協力体制をはじめ誘導に容易なスロープの設置など、災害対策に力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを尊重し一人ひとりに寄り添いプライバシー保護に努めている、言葉使いに注意し人生の先輩として対応するよう支援している。	認知症ケア専門士を中心に、日々のケアの中で誇りやプライバシーへの配慮には重きを置き研修や勉強会を開いている。職員は親しみの中にも常に尊敬の念を持ったケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の声掛け運動の実施により最近利用者からの希望が直接聞けるようになってきた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせた一日の流れを重く考えている、その日その日が自分の為にあることを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	鏡の前で髪をとかれたり姿が増えていくように支援していく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みはそれぞれだが自分の好きなものの食事の時はつい笑顔が出るそんなひと時が増えるよう支援していきたい食器を下げしてくれる足取りも軽い。	職員と一緒にスーパーでの買い物や食事の準備から片づけまで、個々の力量に合わせた手伝いをしている。ワンプレートランチやテラスでお茶を飲むなど目先を替えた提供形態にし、食事が楽しみになる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・水分の量・栄養のバランスを考えながら記録に残し一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後自分でできる人は口腔ケアを促し出来ない人には介助しながら口腔状態の管理をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツでの入所が多いが日中はトイレ誘導が基本で本人の排泄パターンを覚え時間を決めて誘導している。	布パンツの利用者が殆どであり、排泄チェック表の活用で適時のトイレ誘導が出来ている。職員はオムツの使用を控え家族の経費軽減や利用者の排泄の自覚やトイレでの排泄の自立に繋がるよう日々努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘はなるべく薬に頼らないよう野菜・牛乳等によって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は一応決めてはいるが毎日入りたい人もおられ隣のユニットに頼んで入浴をお願いしている。	利用者に応じた声掛けや、機嫌やタイミングを看て入浴が楽しい時間になるように配慮している。毎日の入浴は両ユニット間で対応できる体制である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の生活サイクルはほとんどの方が崩されることはない、一日がのんびり過ぎていく、夜中に起きてお茶をされたりそれぞれである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はとても大事な事と受け止めている、各自の体調管理の為「用法・用量については職員は理解していると考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片づけのお手伝いなどをして頂いている近くのスーパーでのお買い物・リハビリ体操・ゲーム等楽しんで参加されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出など出来る限りお願いしている車いすの方は施設の周りの散策や地域の方との語り等楽しみが増えていくよう支援していく。	車椅子の利用者も食材の買い出しに行くこともあり、その日の天候や利用者の健康状態に応じ、計画なしにドライブなどに出掛ける事も利用者の楽しみである。近辺の散歩は日常的に支援しており、近隣住民との触れ合いも兼ねている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>理解できる方は必要な少額のお金を管理され自分で支払いをされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族の方の電話は大きい声で話してもらい必ず電話に出ている贈り物が届いたときはハガキを出していただくが余り読める字にはなっていない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同の空間には花やぬいぐるみや金魚等癒し系の物を置き生活に混乱がおこらないよう心掛けている又出来る限り外の空気を感じていただきたいと願っている。</p>	<p>玄関には、利用者の顔写真が貼ってあり、訪問者との再会につながっている。テラスやリビングの掃出しの窓からはスロープを利用して非常時の誘導が容易になっている。大型ソファの設置や季節の花も飾られ、ゆったりくつろげる共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファでテレビを見られる方や自室でのんびりされる方リビングで会話を楽しむ方等それぞれの時間が流れていく。そんな空間作りを目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室と自覚できるように過去の使い慣れた生活必需品を持ち込んでいただき安心出きる部屋造りを支援している。	昔の写真や、洋服掛けや手作りの花など思い思いの品を持ち込み個別性があり、安心して生活できるプライベート空間になっている。遮光に簾を遣うなど、室温管理にも工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は混乱しない環境整備に努め自立した生活が出来るよう本人の出来る事を見極め生活に活かしながら支援していく。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない